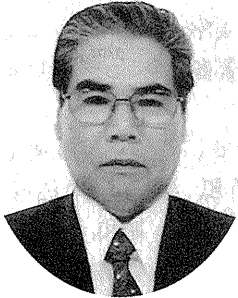


ずいそう



熟年達の修学旅行

権 藤 巧

古希目前から五十路半ばと幅広い年齢層の28名が平成11年11月8日、三峡ダムへの修学旅行へ福岡空港から旅立った。

メンバーは九州地方建設局でダムや河川の仕事に携わっていた退職熟年達で、重慶から三峡ダム建設地の「三斗坪」までの約660kmを豪華客船での川下りにより長江の雄大な流れや中国の歴史等を見聞しながら最終目的の「三峡ダム」を見学する6泊7日の旅である。

そこで、今回の旅で見聞した一部を綴ってみました。

■重慶市について

ガイドの説明によると、重慶は人口3千万人の中国内陸部で最大の工業都市で、「霧の街」「坂の街」と言われているようで、坂が多く自転車の利用が難しく自転車屋さんが不在の街であることである。

当地は、夏には気温が44度にも達することがあり、市政府では40度以上となると就労・就学を中止することになっていることである。ただし当局は40度以上が予想される場合は、「本日の最高気温は39度になるであろう」と発表するそうで、これまでに就労中止になったことは無いらしい。

■三峡クルーズ

三峡は、四川省と湖北省にまたがる中国最大の峡谷で、「瞿塘峡」「坐峡」「西陵峡」の三峡谷よりなる。

我等が「リーガルチャイナ1号」(3千トン)は小雨のなか、埠頭を離れクルーズがはじまる。兩岸は河岸段丘で斜面に工場等が張りついている、かと思えば山頂付近まで開墾され鬱蒼した森林はあまりは見受けられない。

午後「豊都」に上陸し唐時代から70余の寺院が建立されている鬼城を見学、豊都は人口5万人で三峡ダムにより鬼城を残して湖底に沈むとのこと、対岸に集団移転地となる高層住宅の建設が着々と進められている、人口5万人の都市が水没とは！そのスケールに驚愕。

クルーズ2日目、薄もやのなか左岸に李白の「朝に辞す…」で有名な白帝城を眺めながら1

番目の最も狭い全長 8 km の瞿塘峽へ。峽谷は霧に包まれ神秘的で山水画の如し、その景観の雄大さは必見に値する。

次いで最も美しい全長 45 km の坐峽へ。両岸は千 m 級の峰々に囲まれ、垂直な断崖が絶景を呈している、その遙か上方には古代の横穴古墳が点在する、どうやって造ったのかと疑問と感嘆の声があがる。

最後の峽谷は 70 km と最も長い西陵峽である。夕闇と小雨にけむるなかを諸葛孔明が兵法書を置いたと言われる「兵法宝剑峽」や「牛胆馬肺峽」の勇壮な景観が続く。残念ながら雨と霧により、三峽谷の絶景も腕に覚えの猛者達も撮影に悪戦苦闘で結局、絵になる写真は皆無。

■三峽ダム

三峽ダムは、長江の西陵峽の下流「三斗坪」に建設される「洪水調節」「発電」「航路改善」「水源開発」等を目的とした重力式コンクリートダムで主な諸元は、

ダム堤高：185 m（黒部ダムは 186 m）

ダム堤長：2,309.47 m

貯水量：393 億トン（木曾川徳山ダムは 6.6 億トン）

発電所：1,820 万 kW（九州電力総発電に匹敵）

通航能力：最大 1 万 2 千トン（閘門とエレベータ方式）

事業は、1993 年に着工し 2009 年に完成予定で、3 期に分けて施工されている。1 期は右岸の締切後本体の一部を施工し 1997 年に終り、2 期目は左岸体及び通航用閘門等を施工、2003 年終了予定で暫定運用を開始する。3 期目は右岸本体上部の残工事を施工し 2009 年完成の予定で、総投資額は 900 億円で、工事投資額が 500 億円、水没人口は 100 余万人にも及び移転投資額は 400 億円である。ダムの規模・移転人口ともに出発前に予想はしていたが現地での体験の結果は想像を絶する規模で、そのスケールの大きさを実感。

■道路事情

道路は、有料の高速道路と一般道路がある。高速道路は特級から 3 級に区分され、一般道路は市街部の道路と都市間を結ぶ道路に区分されている模様である。

市街部の交通処理はロータリー方式が多く信号処理は少ない。車はクラクションを鳴らしながら人と車の間を縫うように走っていた、人は各自で思うがままに横断しており、事故は己の責任でと考えているかな？の感あり。日本の交通規則のありがたさを実感。

■おわりに

他に古戦場の「赤壁」等、歴史的な遺産も訪ねましたが、中国のほんの一部を垣間見た感想は、上海等都市部と地方との格差に驚き、また中国の歴史の深さを再認識させられた旅でした。

祈！三峽ダムの完成、そして再見。